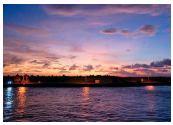


「さるびあ丸」到着時の朝焼け（8月）。

噴火で放出された岩石破片が海食から取り残され離れ岩となったもので、高さ30mほど。

元町浜の湯
長根浜公園内の公共の温泉露天風呂。夕刻には美しい景色も見られる。

1986年の三原山噴火の際にできたゴジラに形が似た溶岩。

踊り子の里資料館「みなとや」

明治時代の貴重な建物がそのまま残る。

島内アクセス

バス、タクシー、レンタカー、レンタバイク、レンタサイクル（電動アシスト付きを含む）あり

島の窓口

大島観光協会

〒100-0101
東京都大島町元町1-3-3

大島町観光課

〒100-0101
東京都大島町元町1-1-14

島めぐりコース

【1日目】

午前 港に到着 → バスで**都立大島公園**へ。ツバキを鑑賞

午後 **波浮港周辺**を散策、ランチはイセエビ天丼 → レンタサイクルで**サンセットパームライン**をサイクリング → **ぶらっとハウス**でオリジナルジェラートを味わう → **長根浜公園**で夕日を眺める → 居酒屋で島ごはんを堪能

【2日目】

午前 **三原山火口**をトレッキング → **裏砂漠**の絶景を楽しむ

午後 元町で郷土料理の**べっこう寿司**を堪能 → **御神火温泉** → 椿油の製油所にて椿油の土産購入 → 出港

利島

島全体が椿林に覆われた自然豊かな島

利島はどこにあるの？

位置：都心から南に134㎞
面積：4.12㎢

アクセス

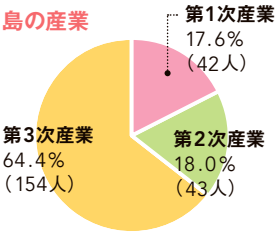
航路：竹芝ー利島（東海汽船）高速船で約2時間25分／大型客船で約7時間35分
空路：大島空港ー利島ヘリポート（東邦航空）ヘリコプターで約10分

information

島の人々

人口：337人
世帯数：194世帯

島の産業



公共施設

役場：1
医療機関：1
小学校：1
中学校：1

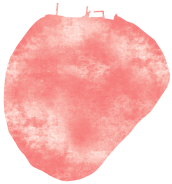
利島村の特産物

水産生鮮品：イセエビ、サザエ、タカベ
水産加工品：岩のり、ハバノリ、トサカノリ
農林産生鮮品：サクユリ、アシタバ、シドケ
農林産加工品：椿油、食用椿油

利島村のシンボル

花：サクユリ
木：ツバキ
鳥：メジロ

利島名物の
特大サザエ。



近くて遠い島

大島の次に都心から近く、伊豆諸島の有人島では式根島の次に小さい利島は、ひとつの島で利島村を形成しています。島の周囲は断崖絶壁のため湾がなく、着岸できる港の整備が困難でした。このため、はしけ（陸と本船の間を往復し乗客や荷物を運ぶ船）が必要で、長らく渡航に多くの労力を必要としました。

しかし、1981（昭和56）年に定期船の桟橋接岸が開始されるようになると、ようやくはしけは廃止されました。港にほど近い「はしけと海の歴史広場」を訪れると、実際に使われていたはしけや海の歴史を物語る資料から、先人たちの苦労を知ることができます。

今も残る信仰の歴史

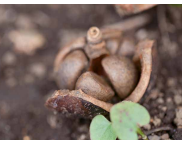
利島は、伊豆諸島の中で三宅島についで中世和鏡が多く発見されています。多くの和鏡が伊豆諸島に残っていることから、島々に独特な鏡への信仰があったと考えられています。東京都の有形文化財の指定も受けているこれらの出土品は、利島村郷土資料館で見学が可能です。

また、島内には7つの神社とひとつのお寺があります。大晦日、利島の氏神様である阿豆佐和気命神社（あずさわけのみことじんじゃ）の境内で歌われる「ジックワ火」の歌は、島に新しい年の訪れを知らせます。

島の面積の8割がツバキ

島の基幹産業であるツバキの栽培は江戸時代から続いています。栽培面積は長崎県五島列島や伊豆大島に比べて小さいですが、島内で取れた実を100％使った椿油は、品質で高い評価を得ており、生産量は日本一を誇っています。

ツバキの種。



椿油生産量日本一の利島

段々畑に広がるツバキのじゅうたん。

利島は江戸時代から200年以上に渡って椿油を生産してきました。大規模な植林が行われた結果、島の面積の約80%にヤブツバキが植えられています。ツバキは12月中旬から3月中旬が見頃です。地面が花びらで染まる風景は「ツバキのじゅうたん」と表現され冬の利島を彩ります。

春から秋にかけては、ツバキの実が地面に落ちたときに拾いやすいよう下草を刈ります。年に数回刈る必要があり、斜面の多い椿畑の作業は重労働です。現在、利島の椿農家は40世帯ありますが、平均年齢は69歳。後継者不足もあり、どのように椿産業を維持していくか課題となっています。

島では椿農家の経営力を高めるために収穫したツバキのデータを分析し、付加価値の高い産業にすることで、椿農家の就業者増にもつなげていきたいと考えています。

また、ここ数年大学生のボランティアサークルが下草刈り作業を手伝っています。若い学生たちの存在が椿農家の皆さんの励みにもなっています。

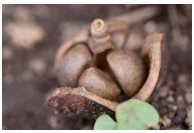
利島の椿油ができるまで

苗木を植えてから、ツバキの種を収穫するまでは約30年かかります。利島で植えるツバキはすべて化学農薬不使用です。

1〜3月
島中でツバキの花が咲き誇ります。

4〜9月 4月頃から実が肥大し始め、8〜9月頃に種が成長します。

6〜9月
下草刈りを行い、収穫に向けて準備をします。



10月頃
完熟した後、固い殻がはじけて種が地面に落下します。

10〜4月
落ちた種を生産者がひと粒ひと粒拾い集めます。

※完熟直前の実を収穫している農家もいます。

11〜5月 収穫した種を乾燥させ、搾油機で原油と絞り滓に分けます。原油は品質保持のためさらに脱酸し、その後数回の濾過工程を経て、椿油製品になります。

利島の人々と7つの神社

利島の島民は大変信仰が厚く、小さな島内に7つも神社があります。「神社明細帳」という神社の台帳を記した資料によれば、利島は事代主命の王子である阿豆佐和気命によって創られたとされ、現在は集落内の西側に明神様として祀られています。

阿豆佐和気命神社

阿豆佐和気命本宮と下上神社が参拝に不便なことから、約500年前に村の鎮守も兼ねて現在の場所に遷宮。

阿豆佐和気命本宮

利島の氏神様で、伊豆諸島を造ったといわれる事代主命の子の阿豆佐和気命を祀っています。創建年代は不明。

大山小山神社

参拝時、二番目にお参りする風習から「二番神様」、もしくは「山神様」と呼ばれる神社。大山祇命を祀っています。

下上神社

阿豆佐和気命の妃の下上命を祀る神社。参拝者や宮塚山の登山者は、安全無事に下山できたお礼に参拝します。

利島の島民は正月三が日に、お米とお神酒を持って阿豆佐和気命本宮（一番神様）、大山小山神社（二番神様）、下上神社（三番神様）に参拝します。山廻りは昔ながらの島の生活と素朴な信仰をたどる道といえるでしょう。

利島ならではの風習は、大晦日の阿豆佐和気命神社でも見られます。23時頃になると境内に氏子や各家の戸主が集まり、ジックワ火という、氏子が収めた御札の焚き上げを囲んで年明けを待ちます。午前0時を過ぎると御札に火が点いて、ジックワ火の歌を歌い、終わると一般の参賀が許されます。

ほかにも航海安全を祈願した浜宮神社や流鏑馬神事が行われていた八幡神社、明治時代初めに神明社・大六天社・神宮社・熊野三社を合祀し創建された堂山神社があります。

水が貴重なため竹を結い幹を伝わる雨水を貯める。

大晦日の夜、境内でジックワ火の歌を歌う。

八幡神社

強弓で知られる源為朝の故事に由来する、伊豆諸島唯一の流鏑馬神事が800年余り行われていました。馬に乗らない歩射が特徴で、当時の様子が郷土資料館に展示されています。

堂山神社

集落内で一番山よりの、都道沿いにある神社で、様々な神様を合祀しています。敷地内から12世紀後半〜16世紀後半の祭祀に使われたと思われる陶磁器類や和鏡が出土しています。

特大のイセエビとサザエ

利島近海は潮の流れが速いので、そこで採れる魚介類は身がしまっていて美味しいと評判です。また、乱獲をせず資源を守り育てる漁業を推進しているため、特大サイズのイセエビやサザエが水揚げされています。一般的にはイセエビは300g、サザエは200gほどで大サイズとして扱われるようですが、利島の場合はイセエビは200～600g、サザエは350g前後が標準サイズとされます。

※イセエビは6～8月、サザエは7～8月が禁漁です。

世界最大級のサクユリが自生

サクユリは伊豆諸島だけに自生しているヤマユリの一種。カサブランカの交配親のひとつで、大きいものは草丈2m以上、花径30cmほどに成長し、世界最大のユリといわれています。見頃は梅雨の時期で、利島港を上がった集落の東西にサクユリの栽培地があり、周辺を散策するコースもあります。ちなみに、ユリ根のでんぷんと米を合わせて製造しているのが、利島名産の「さくゆり焼酎」です。

利島の人々の暮らし

近くて遠いと言われる理由

竹芝桟橋から最短で約2時間半の近距離ながら、冬は西風の影響のため高速ジェット船の就航率は5割を下回ります。

坂の島

利島の集落は、比較的傾斜の緩やかな島の北側にありますが、集落内であっても徒歩ではきつい坂道が多いです。

椿農家は漁師!?

利島の椿農家は兼業が一般的です。漁業のかたわら、ツバキの栽培にも取り組んでいる世帯が多いです。

利島のビュースポット

宮塚山展望台

利島で最も高い標高508mの宮塚山に造られた展望台で、晴れた日には富士山や伊豆半島を望むことができます。

南ヶ山園地

宮塚山の南側に位置する展望台で、天気が良ければ三宅島や御蔵島などが望める景色は、「新東京百景」にも選ばれています。

ウスイゴウ園地

発掘された銅鏡をかたどった池や、当時の住居をモデルにした東屋（あずまや）があります。島の東側に位置し日の出が見られます。

利島で使われていた「はしけ」や海の歴史を物語る資料を展示。

小学校前にある幹周4.4m、高さ30mのクロマツ。

島内から発掘された銅鏡や八幡神社の流鏑馬など多数展示。

利島はドルフィンスイムとダイビングを両方体験できる非常に珍しい場所。

館内には2レーンのボウリング場があり、2019年に設備をリニューアル。

島内アクセス

レンタカーなし

島の窓口

利島村産業・環境課

〒100-0301
東京都利島村248

島めぐりコース

【1日目】

午前 **利島港**に到着 → 民宿の車で宿へ。休憩 → 宮塚山トレッキング（**宮塚山展望台**）
島内には飲食店がないので宿泊する民宿で昼食（要予約）

午後 島内を散策（**阿豆佐和気命神社**、**利島村郷土資料館**、**東京島しょ農業協同組合利島店**など）

【2日目】

午前 民宿で車を借りて神社と展望スポットめぐり（**阿豆佐和気命本宮**、**南ヶ山園地**、**大山小山神社**、**ウスイゴウ園地**、**下上神社**）、初夏はサクユリ、冬はツバキのじゅうたんを満喫

午後 **利島港**から出港

新島

サーフィン、ガラス、白い砂浜 世界を惹きつけるコーガ石の島

新島はどこにあるの？

位置：都心から南に151㎞
面積：22.97㎢

アクセス

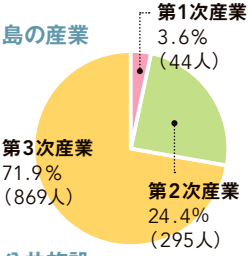
航路：竹芝ー新島（東海汽船）高速船で約2時間20分／大型客船で約8時間30分
空路：調布飛行場ー新島空港（新中央航空）飛行機で約40分

information

島の人々

人口：2,230人
世帯数：999世帯

島の産業



公共施設

役場：1
医療機関：2
小学校：1
中学校：1
高校：1

新島村の特産物

水産生鮮品：キンメダイ、イセエビ、タカベ
水産加工品：くさや、トサカノリ、タタキのすり身、テングサ、ハバノリ
農林産生鮮品：レザーファン、アシタバ、ラッキョウ、ルスカス、アメリカ芋、ブルーベリー、タマネギ
農林産加工品：明日葉加工品、焼酎、トウガラシ、芋加工品、ペペロンオイル、ブルーベリージャム、ラッキョウ加工品
工芸品：新島ガラス、コーガ石彫刻品

新島村のシンボル

花：ハマユウ
木：ヒメユズリハ
鳥：シチトウメジロ
魚：タカベ

新島のモヤイ像。

白砂のビーチが輝く島

新島は、伊豆諸島では4番目に大きな島です。式根島及び無人島3島とともに新島村を形成しており、村役場は新島に置かれています。緯度はそれほど南に位置しているわけではありませんが、黒潮の影響を受け海洋性の温暖な気候です。

石英を多く含む白砂のビーチはサーフィンや海水浴などマリンスポーツの聖地となっており、なかでも羽伏浦海岸はサーファー好みのビッグウェーブが押し寄せる世界的なビーチとして知られています。

新島の代名詞コーガ石

他の伊豆諸島の島々と同様に、新島も火山島です。新島の最後の噴火は886（仁和2）年といわれ、この噴火により黒雲母流紋岩の溶岩「コーガ石」がもたらされました。コーガ石は、世界中で新島とイタリアのリパリ島でのみ採掘可能な貴重なものです。コーガ石は火に強く、断熱効果が高いことから、ビルの屋上の断熱材や、家庭の浴槽の保温効果を高める芯材として利用され、新島の一大産業として栄えました。

島内でも、民家の家屋や垣根が急速にコーガ石の防火建造物へと変わり、新島の特徴ある町並みの原風景が生まれました。

しかし、時代とともにコーガ石に変わる建材が普及するようになると、新たな用途開発が求められました。そこでコーガ石を原材料に島の特産品として開発されたのが「新島ガラス」です。新島旅行のお土産としてだけでなく、ガラス作品を見学できるガラスアートミュージアムや国際的なイベントを通じて、島の観光振興にも寄与しています。

国内外のサーファーたちが集まる。

くらしに垣間見るコーガ石文化

コーガ石の採掘場である向山の石山展望台から見下ろすモヤイ像。

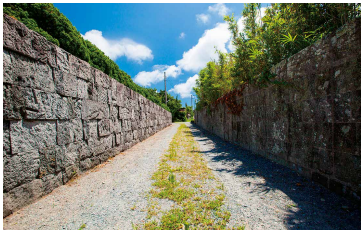
良質の軽い石が好まれたため、
重い石は捨てられてきました。

コーガ石は「抗火石」と書き、文字通り火に強い性質をもった石です。特に軽いものほど扱いやすく、良質とされました。
島の庶民の間で使われ始めた頃は、かまどや火消し壺、墓石に用いたり、寺社の石垣に使われたりしていました。
住民の間で広く使用されるようになったのは、明治時代に4回発生した大火をきっかけとして、木造茅葺の民家がコーガ石の耐火建築に建て替えられるようになってからといわれています。当時のコーガ石は、軽量で質が良かったため屋根材としても使用され、壁から屋根まですべてコーガ石の建造物が多く造られました。
しかし、やがて離島ブームによる民宿建築の影響で、古いコーガ石の建造物は解体され、当時の民家や石倉などコーガ石造りの建物は少なくなりました。それでも新島村本村にある「砂んごいの道」には、コーガ石の塀に囲まれた昔ながらの島の風景が今も大切に保存されています。
新島の古い家並みが貴重になるなか、2009（平成21）年に国土交通省の「日本の島の宝100選」に新島の「石の文化―コーガ石造りの村」が選ばれています。

「モヤイ」と「モアイ」は意味が違う!?

新島には、新島特産のコーガ石を素材にして彫刻家や島民、観光客が作ったモヤイ像がたくさんあり、「東洋のイースター島」といわれています。「モヤイ」とは新島の言葉で「力を合わせる」という意味。一方、イースター島の「モアイ」には、未来に生きるという意味があるといわれています。

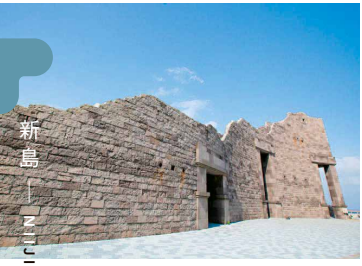
渋谷駅前にあるモヤイ像は、新島の東京都移管100年を機に、新島のPRとして設置されたものです。



昔の新島の姿をそのまま今に残している「砂んごいの道」。

島で出会えるコーガ石の建造物

あんなところにも、こんなところにも、島内にはコーガ石で造られたモニュメントや建物がたくさん。異国情緒が漂う石造りの建造物群は、旅行者を日常から開放します。



光と風と波の塔

新島港船客待合所前の広場にあるコーガ石でできた塔は、階段を登ると無人島の地内島や、湯の浜露天温泉をパノラマで見ることができます。また、1階の室内ではバーベキューが楽しめます。（要観光協会へ申込。）

新島村博物館

三角屋根のピラミッドを思わせる新島村博物館は、村民から寄贈及び寄託された古文書や書画、民具などの資料を展示しています。中でも、江戸時代に造られていた新島様式の漁船と、茅葺屋根の小屋の複製は必見です。

湯の浜露天温泉

古代ギリシャ建築風の湯の浜露天温泉は、新島を代表するコーガ石の建築物です。水着着用で利用する無料露天風呂は観光客に人気があり、沈む夕日を見ながら浸かるお風呂は格別です。足湯だけの利用も可です。

コーガ石から生まれた新島ガラス

コーガ石の採掘は1970年代までは島の一大産業でしたが、やがてコーガ石に変わる新たな建材が開発されると需要は減少し、また良質な石の産出も少なくなるに従い、次第に使わない屑石が増えていきました。

折しも全国的に地域の特産品開発の取組が盛んな時代を迎え、新島においてもコーガ石の付加価値化に向けて研究した結果、新島ガラスが誕生しました。

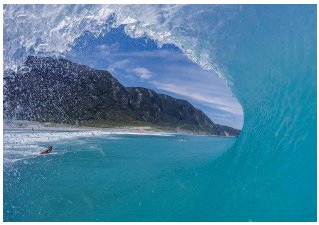
1988（昭和63）年に、新島出身のガラスアーティストをディレクターに迎え「新島ガラスアートセンター」を開設すると、同年より新島村国際ガラスアートフェスティバルを毎年開催しています。

新島ガラス独特の色合いはコーガ石の鉄分による。

制作体験も可能（要予約）。

館内では制作活動が行われている。

新島ガラスアートセンター



東京が世界に誇る サーフィンアイランド

南北に長い新島には、東海岸を中心にサーフポイントが点在しています。日本屈指のサーフスポットである理由の第一は大きな波が立つことで、ハワイのノースショアのようなパワフルな波に魅了され、国内外のサーファーたちが集まります。毎年たくさんのサーフィン客を迎えているだけでなく、日本プロサーフィン連盟主催などの大きな競技会も開催されています。

白い砂浜が輝く海水浴場

羽伏浦海岸

新島の東岸、南北約7kmある新島を代表する海水浴場です。白亜のメインゲートは各種マリンスポーツの安全対策の拠点として造られたもので、眼下に広がる海岸線を満喫できます。

黒根海岸

新島の玄関口、新島港のすぐそばにあるのが黒根海岸です。桟橋では海釣りができるほか、隣接する船客待合所には屋外シャワーやトイレ、売店（船客待合所内）もあり便利です。

本村前浜海岸

本村地区から徒歩で行ける距離にあるのが本村前浜海岸です。海岸が広く、波が穏やかなため、子ども連れの利用者に人気のビーチです。近場に飲食店やトイレ、シャワー設備があります。

展望台から望む新島の絶景

大峰展望台

島の南側、大峰山の中腹にあり、東西の海が一度に見られます。飛行場も見下ろせるので、飛行機の離着陸も見ることができます。

若郷渡浮根展望台

新島の北側に位置しコーガ石で造られた展望台からは、若郷集落や渡浮根港を眼下に、海の向こうに利島の島影を見渡せます。

青峰山展望台

青峰山ハイキングコースの途中にあり、徒歩でしか行けません。青峰山の森が突如開けて本村を見下ろせます。

石山展望台

眼下に大パノラマが広がる、伊豆諸島の島々を一望できるビュースポットです。展望台までのトレッキングコースも整備されています。

羽伏浦展望台

新東京百景にも選ばれた名勝地で、サーフスポットの羽伏浦海岸があり、晴天時には三宅島、御蔵島を一望できます。

富士見峠展望台

標高432mの宮塚山中腹にあり、本村の集落や式根島、神津島のほか、天気の良い日には富士山まで一望できるビュースポットです。

新島村博物館
日本のサーフィン草創期のサーフボードを展示。

十三社神社
13の神様が祀られる伊豆諸島最大規模の神社。

新島ガラスアートセンター
新島ガラスアートミュージアム

メインゲート
各種マリンスポーツの安全対策の拠点施設。

島内アクセス

バス、タクシー、レンタカー、レンタバイク、レンタサイクル（電動アシスト付きを含む）あり

島の窓口

新島観光協会

〒100-0400
東京都新島村字黒根

新島村産業観光課

〒100-0402
東京都新島村本村1-1-1

島めぐりコース

【1日目】

午前　**新島空港**到着、タクシーで移動 → **新島ガラスアートセンター**に電話予約 → **新島村博物館**で村の歴史を知る → **十三社神社**を見学 → レンタサイクルで**羽伏浦海岸**の**メインゲート**に向かい記念撮影

午後　**親水公園**でひと休み → **新島ガラスアートセンター**で制作体験 → **湯の浜露天温泉**で夕日を見ながら湯につかる

【2日目】

午前　ハイキング。**青峰山展望台**をめざし出発 → 展望台から村を一望

午後　**まました温泉**の砂むし風呂で汗を流す → **新島ガラスアートセンター**に立ち寄り、冷却済の自作グラスを引き取る → **新島空港**から出発

式根島

風光明媚な海岸線と野趣満点の露天風呂

式根島はどこにあるの？

位置：都心から南に157㎞
面積：3.67㎢

アクセス

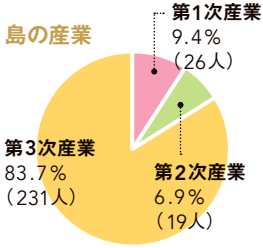
航路：竹芝ー式根島（東海汽船）高速船で約2時間20分／大型客船で約9時間
新島ー式根島（新島村連絡船）連絡船で約10分

information

島の人々

人口：519人
世帯数：262世帯

島の産業



公共施設

医療機関：1
小学校：1
中学校：1

新島村の特産物

水産生鮮品：キンメダイ、イセエビ、タカベ
水産加工品：くさや、トサカノリ、タタキのすり身、テングサ、ハバノリ
農林産生鮮品：レザーファン、アシタバ、ラッキョウ、ルスカス、アメリカ芋、ブルーベリー、タマネギ
農林産加工品：明日葉加工品、焼酎、トウガラシ、芋加工品、ペペロンオイル、ブルーベリージャム、ラッキョウ加工品
工芸品：新島ガラス、コーガ石彫刻品

新島村のシンボル

花：ハマユウ
木：ヒメユズリハ
鳥：シチトウメジロ
魚：タカベ

村営連絡船「にしき」

※式根島は行政上の区分では新島村に属します。

新島から約10分で渡れる島

式根島は新島の南西約2.4㎞に位置し、新島村を構成する島です。連絡船で約10分の距離にあるため、高校生は式根島から新島に日々通学しています。

最も高い神引山（かんびきやま）でも標高は100mほどで、遠くからみると平らな形をしていますが、火山によって誕生した島です。伊豆諸島の多くが富士火山帯で玄武岩質の黒い溶岩であるのに対し、黒雲母流紋岩質（くろうんもりゅうもんがんしつ）の白い溶岩と火山灰でできており、粘りのある溶岩によって台地状の姿になったと考えられています。

明治期以降開墾が進む

式根島の遺跡から、人々が式根島に住み始めたのは、今からおよそ6500年前の縄文時代まで遡るとみられています。考古学的調査から、この時代に島に住んでいた縄文人は本州からではなく、南方諸島から来た人々ではないかという説もあります。江戸時代の式根島には定住者はおらず、流人を新島、八丈島に運ぶ際の仮泊港として、あるいは年貢の塩を臨時に精製する場所、また湯治場、漁場であったようです。入り江の深い島の地形は、風待ちにも、漁を営むのにも都合が良かったのです。

明治時代になり、明治政府より開拓を条件に新島への帰属が認められると、式根島への入植、開発が始まりました。「まいまいず井戸」の前には、開島50年を記念した記念碑が立っています。

現在は海水浴場やマリンスポーツ、露天風呂番付で「東の張出横綱」に認定された地鉈（じなた）温泉など、観光の島として賑わいをみせています。

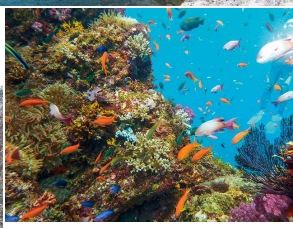
子どもが楽しめるダイビングも。

表情豊かな式根島の海岸線

式根島は浸食で多くの谷が刻まれた、山地が沈水して生じた屈曲に富むリアス海岸で囲まれています。根（海底から突き出た岩）を敷き詰めたような島なので、敷根島と呼ばれたことが名前の由来ともいわれています。
深い入り江を形成したその地形は、古くは風待ちの船の係留地として、また漁業者には多くの魚が集まる漁場として、好んで利用されてきました。島の周囲には海中温泉が湧き出る世界的にも珍しいスポットがあり、ダイバーにも人気です。
式根島の南側海岸一帯に目を向けると、松の緑や奇岩、小島、白砂、海の青といった箱庭のように美しい景観が目を引きます。1936（昭和11）年に式根島温泉ホテルができた際は、宮城県の松島になぞらえて「式根松島」と宣伝したそうです。
このように海岸線が変化に富み、様々な表情をみせてくれるので、展望台からの眺めは格別です。視界を遮るような高い山もないため、遠く富士山まで望める開放感溢れるオーシャンビューを楽しむことができる展望台もあります。

船の風待ちに良いことから泊島とも呼ばれた。

地鉈温泉へと通じる細道。ワイルドな岩場を抜けて海岸線へと向かう。



回遊魚や黒潮に乗ってくる季節来遊魚なども豊富。

海岸線を望める展望台

神引展望台

新東京百景に選ばれている式根島一の展望ポイントです。起伏に富んだ美しい海岸線や伊豆諸島のほか、天気の良い日には富士山まで見渡すことができます。眼下の神引湾と360度のパノラマ風景を楽しめます。

ぐんじ山展望台

島の東側に位置し、新島、三宅島、神津島、空気が澄んでいれば御蔵島も一望できます。展望台の下にはウミネコの繁殖地として有名な岩があり、巣作りから産卵、子育てまでの貴重な生態が観察できます。

足地山（あしじやま）展望台

島の南側に位置し、足付温泉と地鉈温泉をつなぐ山道を登ったところにあります。眼下には式根島港を望み、新島やカンムリウミスズメの生息地である早島、神津島などを見ることができます。